

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成27年12月20日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103417
法人名	社会医療法人 天陽会
事業所名	グループホームさくらじま
所在地	鹿児島市野尻町49-1 (電話) 099-245-0818
自己評価作成日	平成27年10月20日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成27年12月10日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、利用者の良き「パートナー」として笑顔あふれる毎日が過ごせるようケアにあたりと共に独自の委員会活動を持ちながら、サービスの向上や業務改善に努めている。また、医療機関と隣接していることで診察や外来リハビリなどを利用しやすく、緊急時には、すぐに連携をとれる体制が整っていることで、利用者やご家族に安心してもらえる介護サービスの提供が出来る。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当ホームは、雄大な桜島を背後にみる幹線道路沿いにあり、母体の医療機関にも隣接しており、フェリーターミナルから車で約5分程度の利便性の良い場所に位置している。
- ・母体の医療機関とは、24時間医療連携体制が構築され日常は、訪問看護による看護体制もあり、また薬剤師との連携や緊急時の連絡体制があるため利用者や家族はホームでの暮らしを不安なく送ることができると満足している。
- ・ホームの理念は、「心からの笑顔と、人との繋がりを大切に喜びある生活を目指します。」といったもので、地域や利用者を取り巻く人との関係性が途切れることがないよう職員全員で取り組んでいる。今年もホーム主催の夕涼み大会に来ていただくなどして地域と交流している。
- ・管理者は、年2回職員と個人面談し、自己評価するなど人事考課システムがあり月1回のミーティングで運営に関して各委員会から意見や提案などを聞く機会を設けている。職場環境も良く離職率も低い。また、管理者は、日頃から職員が意見が出しやすい雰囲気作りに努めている。
- ・運営推進会議には、家族が交代で参加しており他のメンバー同様に活発な意見交換がなされている。会議の内容は、ホームの機関誌に掲載し遠方の家族にも報告している。
- ・ホームは、最近、看取りを終えたばかりである。利用者や家族には、契約時指針にてホームで対応できることについての説明を十分した上で納得のいく最期を迎えられるようその都度段階に応じた説明と同意を得るよう取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	新入職員をはじめ理念の理解が徹底できていない。	理念は、朝礼や申し送り時に職員全員で唱和し、サービス提供する上で常に意識してケアに取り組むなどしている。また、家族には毎月広報誌に理念を載せ家族会で触れている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアにグループホームの行事に参加していただいたりしている。	ホームは隣接した地域との交流活動に参加して親睦が深められるよう努力しており、日常は法人の病院やリハビリに来られた方が訪ねるなど地域とつながりながら利用者が暮らしていけるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の体験学習の学生の受け入れなど認知症について理解をいただく機会としている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所での出来事など現状をありのままに報告し様々な意見を取り入れながらサービスの向上や改善に努めている。	職員は、外部評価様式で自己評価をしており、結果報告をしたり新たな課題などにはメンバーからの意見をサービスの向上やケアに活かすなどしている。家族は、輪番制で参加をもらうなど協力が得られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議への参加や鹿児島市からの相談員受入れ、保護課との情報交換など相互の協力関係を築いている。</p>	<p>市担当者とは、直接面談したり電話で相談や意見交換、指導や助言をいただいている。年1回市相談員を受け入れて報告の結果をサービスに活かしている。生活保護受給者も多く担当職員と連携を図り協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>勉強会を開催し介護の現状を振り返りながら身体拘束の無いケアに努めている。</p>	<p>身体拘束委員会があり、毎月の勉強会やミーティングの中で身体拘束することの弊害や具体的な事例について話し合っている。居室の入口に鈴を設置している方や、玄関は利用者の状態の変化や時間帯によって施錠するなど安全に配慮し、職員が目配り、気配りして自由な暮らしに配慮している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>入浴時の全身チェックや看護師による健康チェックなど身体状況の確認が相互に行えるよう注意を払っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度利用について勉強会を設けたり、家族への支援を行ったりしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用開始時に書面を見ながら十分な説明を行い事業所の運営についても理解をいただくよう心掛けている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族代表にも運営会議に参加していただき、ホームへの意見を聞いたり、家族会の中でも各担当者が状況報告と共に要望等を聞いている。</p>	<p>利用者からは普段の生活中で意見や要望を聞き取り、家族には面会時や行事、運営推進会議に参加をもらい聞き取るようにしている。また、年3回の家族会で、利用者ごとの担当者を中心に要望などを聞き取り、出された意見をサービスに活かすようにしている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のミーティング時や人事考課時の個人面接など職員からの意見を聞く機会を設けている。</p>	<p>毎月ミーティング時に職員からの意見を聞き取るようにしている。人事考課システムがあり、年2回管理者が個別に面談をしたり、職員は記録を残し意見や要望などを話し合っている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>月1回のミーティング時に業務改善事項についての提案、要望などを聞くようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>教育研修委員会が年間の研修計画を立てそれに沿ってそれぞれが必要な研修に参加できている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同系列の事業所と合同の運動会を開催したり交流の機会を設けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が穏やかな気持ちで話せるような場所の設定や雰囲気づくりに努め、レクリエーションなどへの参加で徐々に馴染みの関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や面会時の情報交換などで不安や要望などについて聞きより良い介護サービスにつなげられるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医師からの情報提供書などを基に本人の意心身の状況把握に努め、必要なサービス、リハビリ等の利用も支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	必要時の家族への電話連絡、月1回の広報誌の発行など本人の日常を情報発信し、家族とのつながりを深めるための家族会も年3回開催している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回の広報誌では本人の写真と共に現状を報告し、必要があれば電話での連絡情報交換を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には、居室でお茶を飲みながらゆっくり過ごしていただくよう工夫し、家族との外出支援なども行っているがなかなか実行されない。	ドライブがてら職員と地域に帰る利用者もいる。また、家族と外食を楽しむ場合もある。電話や手紙の代読を支援、知人や地域の方が面会に来られゆっくり過ごせるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士一緒にリハビリに行く機会を作ったり、お互いの部屋を行き来して会話する時間が持てるよう支援している。また、トラブルが発生した時は席替えをしたり早めの対応を心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の状況についても家族へ電話したり、入院の利用者にはお見舞いに行ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の強い希望により居室での食事を提供したり、入浴等についても定時以外の時間でも入浴できるよう臨機応変に対応できている。	担当者を中心に本人の発する言葉やしぐさ、行動を感じ取り真の思いや希望、意向などを把握するよう努めている。意志表出が少なくなってきたはいるが、家族の情報も参考にして本人の思いに寄り添うケアを心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者ごとに担当者を設け家族との密接な関係が築けるようにしており、職員は電話や面会等を利用しこれまでの生活歴や経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、食事量やバイタルチェック、1日の過ごし方を記録し、本人の心身の状況がいつでも把握できるようにしている。また、ミーティング時に各担当者が利用者の現状説明や要望などを報告し情報の共有ができるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回の検討会の開催やサービス担当社会でもそれぞれの意見を聞きながらケア計画を作成している。	アセスメントは、担当者が中心になり実施、ユニットごとにカンファレンス、ミーティングを月1回開催し話し合っている。日曜日には、日勤の職員がケア検討会を開いて利用者のよりよい暮らしの実現に向けて検討し、現状に即した介護計画を作成している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りと記録を基に必要事項や連絡事項などそれぞれの情報を確認し介護サービスの実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	薬剤師や栄養士理学療法士など多方面の意見も聞きながら意見交換を行い適切な介護サービスの提供が行えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族会に地域の公園を利用させていただき地域の皆さんとも気軽に接する機会を設けたりボランティアの受け入れも行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する病院での定期受診のほか、緊急時などはご家族と協力し主治医、専門医などその都度適切な受信が行えるよう支援している。	母体の医療機関とは24時間医療連携が図れている。薬剤師との情報交換があったり、看護体制もあり、他科受診にも配慮するなどいつでも適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による定期的な健康チェックのほかに外来看護師による点滴や処置など情報を共有しながらの連携体制が整っており、いつでも適切なアドバイスをもらうことができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には互いに情報提供書をやり取りし情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	いつでも医師や看護師に相談できる医療連携体制が整えられており、できるだけ本人や家族の希望に添えられるよう支援している。	重度化対応・終末期ケア対応に関する指針があり、入所時説明し段階に応じて本人、家族に同意を得るなど文書にて意思確認をしている。また、家族会で終末期におけるホームでできるケアについて説明し、話し合っている。管理者は、職員の心のケアにも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を行っているが、なかなか実践に結びついていない部分もありこれからさらにレベルアップできるよう努力していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防訓練等定期的に行っているが、8月の火山爆発の避難指示に時に職員の緊急会議を開催し災害時の対応についても再度確認を行った。</p>	<p>ホームは、建設業者などと協定書を交わし、災害時の協力体制を構築しているが、地域との協力体制は薄く、母体の医療機関を含め法人の協力体制に開始している。管理者は隣接した地域の公民館長などに協力をもらい慌てず確実な避難誘導などができるよう今後協力を求めていく予定である。水、缶パンなどの備蓄がある。</p>	<p>地理的な制約は多いものの、隣接する集落との協力体制づくりが望まれる。ホームだけの避難訓練だけではなく、協定書を交わしている建設業者や地域住民にも訓練に参加をもらったり見学をお願いするなど関係づくりを検討されたい。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ゆっくりと優しい声掛けを実践できるよう職員相互に注意を払っており、時々勉強会の中で介護実践についての改善点など振り返りの機会を設けている。	年長者として敬い失礼のないように言葉使いや名前の呼び方に気をつけている。職員は勉強会の中で日頃のケアを振り返る機会を大切にしており、一人ひとりの誇りを尊重して、プライバシー確保を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物や理容などについても、自己決定できるような声掛けを心掛け、本人の希望や意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の時間帯の希望や夜間のテレビ視聴、就寝時間等についても個々のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	理容師に定期的に訪問してもらい散髪していただいたり、本人の希望の美容院へパーマに連れて行ったりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	彩りよく食材の大きさや硬さなど個々のレベルに応じた工夫をし提供している。また、台拭きやエプロンの着用など本人のできる範囲でお願いしている。	献立は、その日の調理担当者が食材を見て決めている。台拭き、ツワの皮むきなど利用者の手伝いもあり、誕生会は本人の好みを聞いて調理している。花見の時は、公園で弁当を食べたり、年1回は家族と会食をする場を設けている。また、家族と一緒に出かけ外食を楽しむ利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は個々のレベルに応じてきざみ食などを提供しており水分についても本人の望む牛乳・ジュースなども提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ではないが、就寝時は工区ケアの声掛け介助を行い義歯洗浄剤を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々に排説の記録を行い、適切なトイレ誘導を行い、本人の力量に合わせできない部分を介助するよう心掛けている。	ポータブルトイレやトイレで排泄できるよう個々のリズムを把握して誘導している。また、1カ月のオムツの使用量を家族に報告したり、お茶や牛乳、水分補給、体操などをおこない排便のコントロールができるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のバイタルチェックを基に排便に関する項目をチェックしながら、必要に応じて水分摂取や緩下剤、薬用茶などそれぞれの対応を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の体調に合わせて週3回以上は入浴できるようにし、入浴の時間帯も本人の希望に添えるよう心掛けている。	利用者の体調や必要に応じて入浴を勧め気持ちよく入浴ができるよう配慮している。歩行が困難な方は、シャワーキャリーを活用して安全性を確保している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の清潔を保ち定期的に天日干ししている。また、日中はそれぞれ希望の場所でゆっくり過ごしてもらい、夜間は、室温調整にも配慮し安眠を促している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個々の介護日誌に添付し注意事項や副作用等についても理解できるようにしており、利用者への提供についても』開封し手渡し飲み込みを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなレクリエーションを選択したり、好きな歌を選んでもらったり、時々、外にドライブしたりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は、地域の中での家族会(夕涼み会)を実施することができた。また、面会時など家族との外出や外食も勧めているがなかなか実施されない現状がある。	年3回の家族会開催時や行事に合わせて外出することが多い。今年は、地域に出かけて行って地域の方と家族会(夕涼み会)を実施した。職員が伴い地域に帰る方がいたり、家族と一緒に外出を楽しむ利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望時には、預り金の中から自由に使えるように支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者からの希望に応じ電話したり、遠方からの贈り物のお礼など気軽に会話できるよう支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビング内には、季節ごとの展示物や装飾品、花を飾り季節感を取り入れている。また、適度な換気や室温調整も行い居心地良く過ごせるよう配慮している。</p>	<p>玄関には、季節の生花が飾られクリスマスを意識した飾りつけが来訪者の目を和ませてくれている。対面式キッチンからリビングでくつろぐ利用者の表情や声などを垣間見ることができて調理の匂いや音などが五感を刺激している。また、二人掛けソファや畳部屋があり午睡や夜間の睡眠などに活用されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>広々としたリビングや和室があり、それぞれの場所でテレビを見たりソファで休んだり音楽を聞いたりすることができるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望により、テレビや応接セット私物の箆笥などを置いたり、これまでと同様の暮らしが提供できるよう家族とも意見交換しながら部屋の雰囲気づくりに努めている。	テレビ、仏壇、位牌、家族写真、タンス、机や椅子などの馴染みの物を持ち込み自宅を再現するかのような個性あふれるくつろぎの空間を大切にしている。ベットは、本人の身体機能に合った物を選定し活用してもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべての部屋がバリアフリーで段差のない作りになっており、安心して移動できるよう手すりも設置されている。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない